

決算状況を

お知らせします

9月11日から10月2日まで開かれた市議会第3回定例会で、令和4年度の一般会計など6会計の決算が認定されました。本号では決算の内容を、財政の健全度を示す指標と併せてお知らせします。詳しくは市ウェブサイトで確認してください。

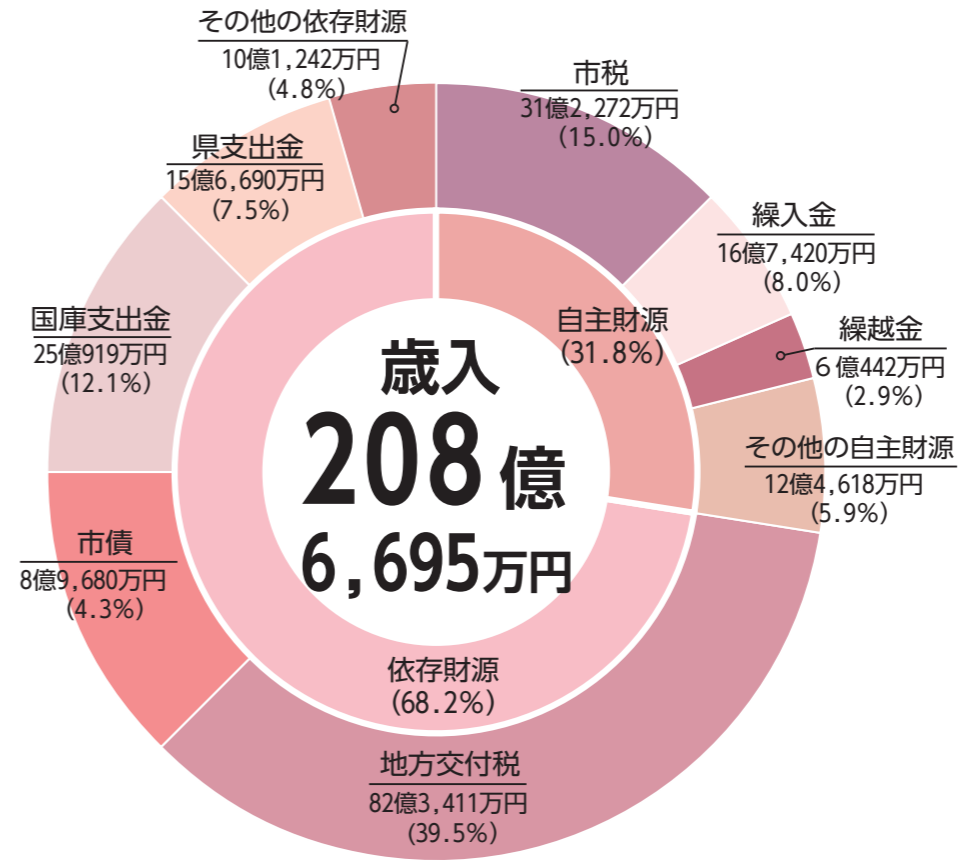


詳細はこちら

歳入 自主財源の比率は前年度比4.3%増

4年度の一般会計の歳入(収入)は、208億6695万円でした。一番多くの割合を占めたのは、地方交付税の82億3411万円、前年度より1億8981万円少なくなっています。次に多いのが、市税の31億2272万円(前年度より8298万円の増)で、3番目が国庫支出金の25億919万円(前年度より4億8694万円の減)となっています。

歳入のうち、市が自主的に収入できる自主財源は66億4752万円(前年度より2344万円多くなり、国や県の決定により交付される依存財源が142億1942万円(前年度より32億998万円減少、前年度に比べ自主財源比率が4.3%多くなりました)。

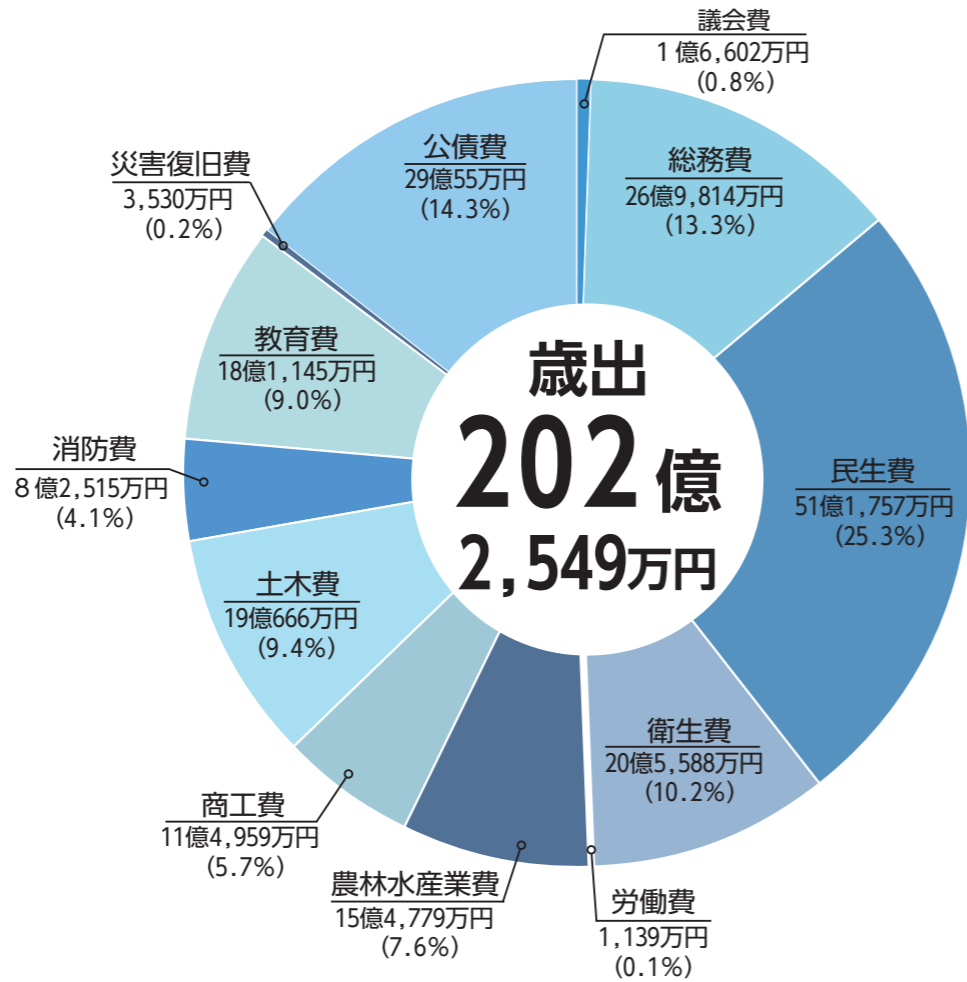


※歳入歳出ともに、金額は1万円未満を、割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。

歳出 矢神飛躍台改修工事など教育費が38.2%の増

一般会計の歳出(支出)は、202億2549万円でした。

一番多くの割合を占めたのは、民生費の51億1757万円、子育て支援、障がい者や高齢者の福祉サービス、生活保護などに加え、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業などの物価高騰対策支援事業を実施しましたが、前年度より7億8968万円減少しています。次に多いのが公債費の29億55万円、地方債の償還を行いました。教育費は、いわて八幡平白銀国体の開催に向け、矢神飛躍台改修工事を行うなど前年度比5億110万円(38.2%)の増となりました。



※1 経常収支比率

人件費や扶助費、公債費の義務的経費などに充てた一般財源の額を一般財源の総額で割ったものです。数値が低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあることを示しています。

※2 財政力指数

市税などの基準財政収入額を基準財政需要額で割って得た数値の過去3カ年の平均値です。数値が高いほど財源に余裕があることを示しています。

◆ 4年度の主な事業(抜粋)



IT関連の人材育成事業を実施



冬季の安全確保のため除雪車両を更新



矢神飛躍台を改修し競技環境を向上